



四

季

の

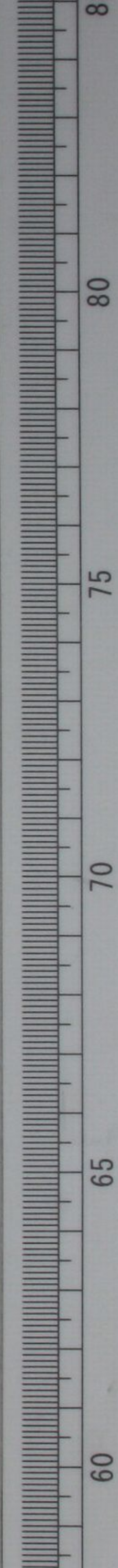
精
三
見

全

中村俊定文庫

文庫 18

281





序
後定藏



うまゝとて、大不同と歎きし
花よ花よ人のうけりたり
かこちくれきふとやあらん人
まのまの、花とあまき、
ふりてそく、七園、
中たるとく、家上、
変化とて、
ハ、
ハ、

花



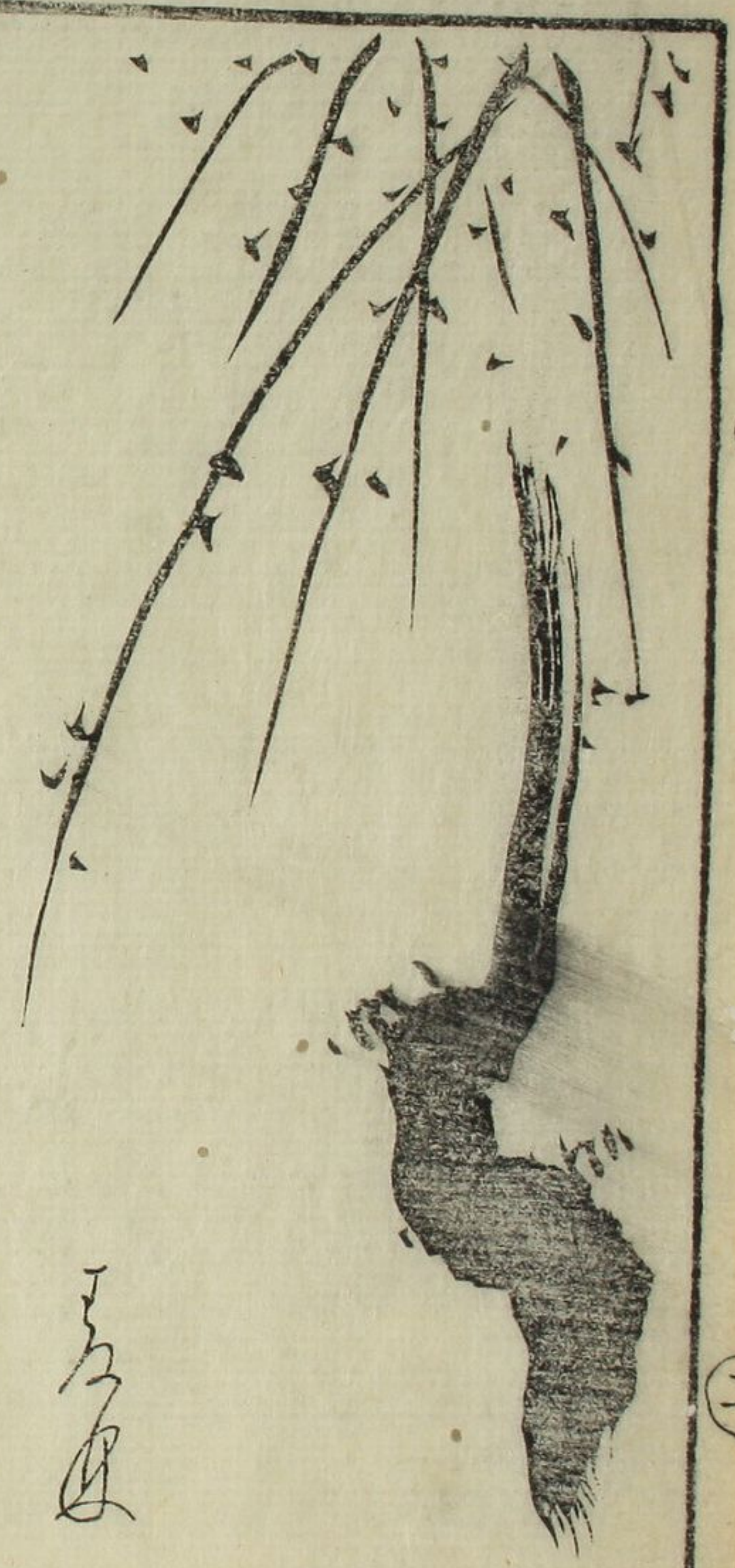
系一せぬきあしとまんい一中
つらうは終まうん系にそはたを
いしとらに神あれと目符也
四時此情は後とこく叶門子
孫一終子士れ毎のさとつまら
四季れ詠を系め四地は懐旧の
子白を信く一田者一く一終と
あつらひ小子かの女叔夏乃つ編

あつらひいそまゝうら字一
あつらひいそまゝうら字一

延享二年乙未秋八月日

夏浪敬人





ふさふさ

月をいそぐ

秋

三

二句一順



社友

月をいそぐ

唯ハハのそく

正定之白のそく

待て候と

同のまひ日

細をけり

先解せ入

麻ハ候

兎士

蘭轡

曰圖

如之

藤尺

菊茂

東星



石積く抄書に粥ハ初る人 坐来

情を任ねれ寺おしく長 巴音

風ハ系守の神もるまきりや 温故

大根引く濁流 湖 松比

湯の味ぬき年よ老くも頂まきり 洞也

あふひく之仰く扇墮の位を 浅幽

吾もてんコトも波流流しもの 雄古

漕ふまきくハ何れ兼共舟 素水

積中れ草もほすし男山 百童

既陀のまけハ神の惚めより 素道

形もれも喰りよくはどそ茶よそ一 畔古

廣よまきり取も善法場て同 湖嶺

子實も亭に隠りはほれ月 浅鯉

回く庭まきハ輪おるせき 帆士

内舟もまきり直さぬおれおろく 五畝

何もまきりまけ百と染のぼろ 九耳

豆磨_二も一歩を_一為_レの_レ也の_レやと 延星

る_レに_レ云_レま_レこ_レ虚言_レの_レむ_レり_レ 云步

初雪の_レ誘_レふ_レ傘_レの_レ珠_レの_レあ 鶏山

系_レの_レや_レて_レ煮_レの_レさ_レお_レし_レさ 喜之

再興の_レう_レち_レの_レな_レる_レれ_レ縁_レを_レく 茶城

移_レと_レ休_レと_レ時_レも_レ憂_レ旨_レ碗 甫二

又月_レ白_レれ_レ元_レ山_レを_レり_レ晴_レ好_レ月 李青

莊子_レ讀_レ同_レの_レら_レに_レ賦_レと_レん 友之

肥_レく_レく_レ研_レひ_レや_レと_レ而_レ御_レ乳 其下

孫_レつ_レこ_レの_レは_レか_レら_レ一_レ粒_レう_レれ 麥茂

朝_レの_レ月_レ陰_レと_レち_レり_レぬ_レ小_レ石_レ系 湖水

浄_レ穠_レの_レよ_レり_レよ_レめ_レ白_レ砂_レを_レ吸 兔友

小_レ代_レの_レと_レも_レ同_レく_レ火_レ積_レ火_レ多 芦舟

約_レ雜_レれ_レ禮_レの_レ備_レは_レ戴_レく 井梧

泥_レの_レ虫_レ舟_レと_レち_レり_レぬ_レ紙_レ麻_レく 文水

化_レ宿_レ回_レ舟_レの_レ外_レれ_レを 里風

此れも亦く是く名のうま

素吟

和當れは清も唐も境内

可雪

不槿のそくもはるる常實

鬼口

不槿も清も是くは清風

東湖

困考れ西も是くは乾龍

茶夫

不の名も月之赤坂

於兔

清も是くは清風同名あり

斗仙

併以是之懐念ははる月

亀北

夕日く物見も若く花の幕

徐来

汝下も是くは幸ひ頃梅

下学

穴蕙れもは奥深し時く

呂節

色群の事はさひり度信

遠仙

編別、是れ分るは吾もは

十陽

是れ翹もく軍法もかた

湖馬

冬枯は是れ也山も雪も是く

至幸

味も是れは是れは是れは

禹遊

若くしては猿よ、珠敷の鯨
 小菰に縋子れ音をきく
 歌をよむるの草をの青
 阿麻の竹ともさる麻て君
 安部川の為きは解き管飽く
 化と鳴とも中よん
 夕月れ海と回と芥山よ入
 連の白をよと号る如草狩
 曾呂
 彭星
 逢楓
 雨畦
 李星
 具石
 楓路
 芦航

着煙の晴よ紅波の夢鳴く
 硯に裸かくは 硯し屏
 ち用て紙床ともさる如
 釣のそまらふ如きれ歌よ
 池回へ便も炭と酒よ待
 浮世をゆく人物に下は
 種と名ともく白ふ不嘆く
 懐夢よあるまのの晴
 楓至
 寸童
 花莖
 素角
 飛泉
 牙光
 麦推
 杜由

各詠

うららかにあそぶと晴く秋の
兔士

秋のさびに廣きく足る秋の
日圖

秋の芳子とくくを秋の
藤尺

雨の似く雪と春のき秋の
如之

吸ふの中にまき秋の
蘭轆

尺を透しきく春のき秋の
東星

芳子と春のけ秋の
望来

目よんをく田の芳増え秋の
巴音

うら月の陰に流く柳の如
菊茂

えん水と秋の柳の如
松比

よれく蕨と外なる秋の
洞也

春の月の削るあき秋の
荃城

春の行を秋の秋の
雄古

春のくれば芽と春の秋の
素水

春の合の花れを秋の秋の
温故

あしひても見しき時を候は
 花道を筆をほり候は
 まよひてそは供ひ昔は候は
 けしきものせり候は柳は
 不見ふと見し時も有候は
 風中にを流やく日は野に候は
 隙子も同の陰あり候は
 雲に水溜りもなき候は

茂幽
 素道
 畔古
 浅鯉
 凡耳
 五畝
 蓬星
 帆士

川ありまのいせく候は
 晴れ日も極のほに候は
 老さるゝ形の便や見候は
 穉く候は候は候は
 耕の業候は下候は
 五候やふとも実とも面は
 系候は下候は候は候は
 泉水の約は候は候は

云步
 湖嶺
 百童
 可涼
 律免
 龍歌
 健路
 麦下

楓

秋のほろよるもあつて
楓至

枝のうねり押へて
望冬

形もそなたの御く
嶋城

秋ももよほし
李漢

吾秋の一分も
芙蓉

吾柳や吹り
泉布

心もよほし
鶏山

川もよほし
喜之

習子よら
南二

砂のうねり
李普

秋のうねり
友之

吾中に
茶夫

秋のうねり
愈久

吾秋や
斗仙

秋のうねり
帆車

吾秋や
於鬼

東湖
 文雀
 素角
 花莖
 寸童
 龜北
 至幸
 曼遊

兔馴
 如子
 遲楓
 浦江
 楓路
 李室
 東籬
 芦航

漢やまひ秋の假名や月如影
 雪解まふ角を体は柳の
 吹ぬ日ハ水も凍る秋ハ
 雪解まふ角へ赴くやまき
 同のまひ浦にもまき
 雪解ぬふまき柳ハ
 まきまきぬ日まき
 夕下りて庭まき柳ハ
 呂第

文二

下学

雨畦

其名

上陽

徐来

湖鴈

呂第

雪解くまき柳ハ
 川流まき柳ハ
 永まきまき柳ハ
 初まき同まき柳ハ
 吹れまき柳ハ
 里れまき柳ハ
 まきまき柳ハ
 古地の境まき柳ハ
 可雪

文水

湖水

夾茂

素吟

里氣

芦舟

井梧

可雪

同日の如く同日の如く柳の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く

鬼友改
鬼口改
其口改
左雀
麦後
文良
略下
梅栗
山鼓

花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く
花の如く花の如く花の如く

池希
桂之
杜由
詮史
扇袂
松下
可吟
一口

世の夢と孫とく庵の歌い
 同よまへさる破くぬ柳うら
 け川もまへさるぬ柳うら
 給も座し鳴呼るぬ柳うら
 不静くは同よ細結歌うら
 皇と結よまへさるぬ柳うら
 立如くに屋傍くぬ柳うら
 嘆後の庭も結くぬ柳うら

朝見
 如鳩
 其夕
 女董
 大口
 麥推
 李坂
 巨條
 可敬
 木造
 端律

約後の庭と結くぬ柳うら
 何よまへさるぬ柳うら
 傘控くおきぬ柳うら
 就考れ名はまへさるぬ柳うら
 宿留れぬ永よまへさるぬ柳うら
 禁路の池も細結歌うら
 是も琴も弾や歌乃新の妻
 今も直とむく河やまへさる柳

射石
 飛泉
 芦帆
 素由
 高秋
 巴山
 久居
 桃溪
 離星

形うハか〜々も見果
長み、同よ〜つ〜柳
吾柳やよ〜流〜加〜け
初ハ少〜縁の同〜の柳
十丈の柳子や寺ハ多〜柳
夕暮ハ多〜柳〜若柳〜乳
歩〜柳〜お石并〜柳
河〜水〜若柳〜柳

全 全 全 津 丹生 全 全 全
雲水 乙橋 蘭舎 乙牝 悦峯 二日坊 鳥語 麦籬

多同也反古ハ〜柳
字文ハ記原〜柳
こ〜同の柳方〜柳
花月〜柳〜柳
一〜年〜柳
西月ハ〜柳
坂名〜柳
柳〜柳

全 全 全 全 全 全 全 全
千月 乙架 鳥羽 巴列 紀元木元 子秋 一身田 為秋 柳 陽吾 桃如

凍破鳥

何れもさびしう

ふく

吾



唯々ハ又芳ねとやんこ

加賀 希因

柔ねありの滑りぬ星 如本

洪炮子川城とれ火の消く 射堂

吹流しとつ不れ日也 楚雀

門子あやう乳家と家梅道 芦丸

帯は五とく送る羽波のし 烏石

近くは菊れりもやう之を月 五菱

牛乳骨中を映さきりくは 由戸

各詠

加賀金沢

中としつる所のきさやんこき
 破さあれ腰よりや凍破る
 けし廣ハ歌も一音そかんこ鳥
 うらうききけお赤凍あーかんこ鳥
 約後ともなはるより諫鼓を
 吉田よもきくぬ額よりかんこ鳥
 近身をよりぬ保やんことり
 立菱
 由戸
 馬石
 如本
 尔来
 射堂
 芦丸

つの名ご同く杖よりかんこき
 日れ曇も甲やうきまや凍破鳥
 廣家の油交れちやんこき
 骨えうらうの色えかんことり
 取多おにやうらひ着や凍破る
 道そくぬ日も青園やんこき
 二王さへ獨りあゝ諫鼓鳥
 凍破るまうらうさかんことり
 楚雀
 里朝
 葭田
 舎采
 卦卜
 且考
 若冰
 越福野
 其江

嘆息と匹匹の跡をうんこ多 越中高尾
左圭

差の師の程は若くかんこ鳥 鬼園

う水はほとけとせは跡を多 英里

まをふくく明はさるるんこ多 鹿江

杯のふはむく一語はや跡を多 二直

一家よりぬをくまう一外かんこ多 晚蘆

跡を多ももふあはく懐の奥 史兆

行同よかろく竹やうんこ多 鹿及

麻のこは秋をこましくかんこ多 文器

温泉れ利と平常さるるや久こ多 告何

新坊のおろん房や跡を多 富山 麻文

尾をこれ端ぬおたりかんこ多 加賀松任 寄井

跡を多懐の外を跡を多 和音

さきひさの主人よこまうんこ多 女 千代

け神はいつたもろまたりかんこ多 星文

さあさあろろのう跡を多 志甫

仙人の身はぬそりそらんこき
 依保娘のうもあまこかんこき
 朽枝ははせれまそ涼波身
 うるはいつらもあまこかんこき
 夏山の秋の身あまらんこき
 友のりもあまこかんこき
 う中にあまこかんこかんこき
 仙人はあまこかんこかんこき
 友枝
 菜葉
 素由
 春山
 冬柳
 呂角
 盲人
 知聲
 左六

夏草は花は霞こかんこき
 奇塚の影はあまらんこき
 紙のたはたの涼も涼波身
 実桶の吉中もあまらんこき
 涼鼓もあまこかんこかんこき
 うんこ身佛の形もあまらんこき
 散花の身あまこかんこき
 草花はあまこかんこき
 小松
 江丈
 枝量
 二峰
 是宙
 素竹
 和本
 杜ト
 豆葉

け道も花の枝よりうんこ多

本吉

若雅

くー三重の外や詠波鳥

僧

大睡

塙丸の巻坂やうーんあーり

僧

猶水

そりハ子ハはうしうーんこ多

鳥右

一里おくく二里山よ入んこ多

石川

松山

離ぶお女れをのりりうーんこ多

好栄

んこ多 隠ハ乳をあそぶ体

白視

河中に山新らありんこ多

木士

陽子田のそそ麻子けやんこ多

源平山

曾冬

ニセ方ゆも実とよりけりかんこ

机文

みと摘細の裏外り詠波多

柏野

巴文

うぶふおくくうぶふ及やんこ多

河原

豆腐もにもうれ喚ありかんこ多

其葉

楽焼よ餅身うやんこ多

金川

茶うう環と託もやかんこ多

土室

金英

橋の考れをいりまやんこ多

黒石

空も亦も是れはさうりくんこを

宮保僧 十

不負ぐも腹立ても只かんと鳥

水百庵僧 洞水

同者も是れ能をや詠波を

本吉新村 以

りよにさうりくも子守りくんこを

越後下今町 花弄

といつるも帝甲費雨りかんと鳥

和郷

水も此言反りし凍鼓身

芦角

河の音も我も況くくんこを

監水

床くつてた起ても所くんこを

指月

かんこをよ向も帝り菊菊乃るか

菊菊

昔のわした雨くくくやんこを

流巴

新り床の庵も連りかんこを

東角

茶此下の初葉も惜く詠波身

思柳

そま寮へも床もくゆりくんこを

少年 芦洗

驚くくんこを啼涙を床も

巴三

是れ種もさけり庵やんこを

柯誌

火も積たぬ庵もいりやんこを

凍魚

花の匂いもあつたよりのうらみ

龍虎

花の匂いもあつたよりのうらみ

梨月

花の匂いもあつたよりのうらみ

里鶴

花の匂いもあつたよりのうらみ

志竿

花の匂いもあつたよりのうらみ

依竹

さびしうおつたの志情とまじり
うらみと悔し

笑ふこれとまじりかみふる

槐林

あつた日のうらみかきこみかみこき

左曲

あつた日のうらみかきこみかみこき

卷之

あつた日のうらみかきこみかみこき

杜角

あつた日のうらみかきこみかみこき

逸鳥

あつた日のうらみかきこみかみこき

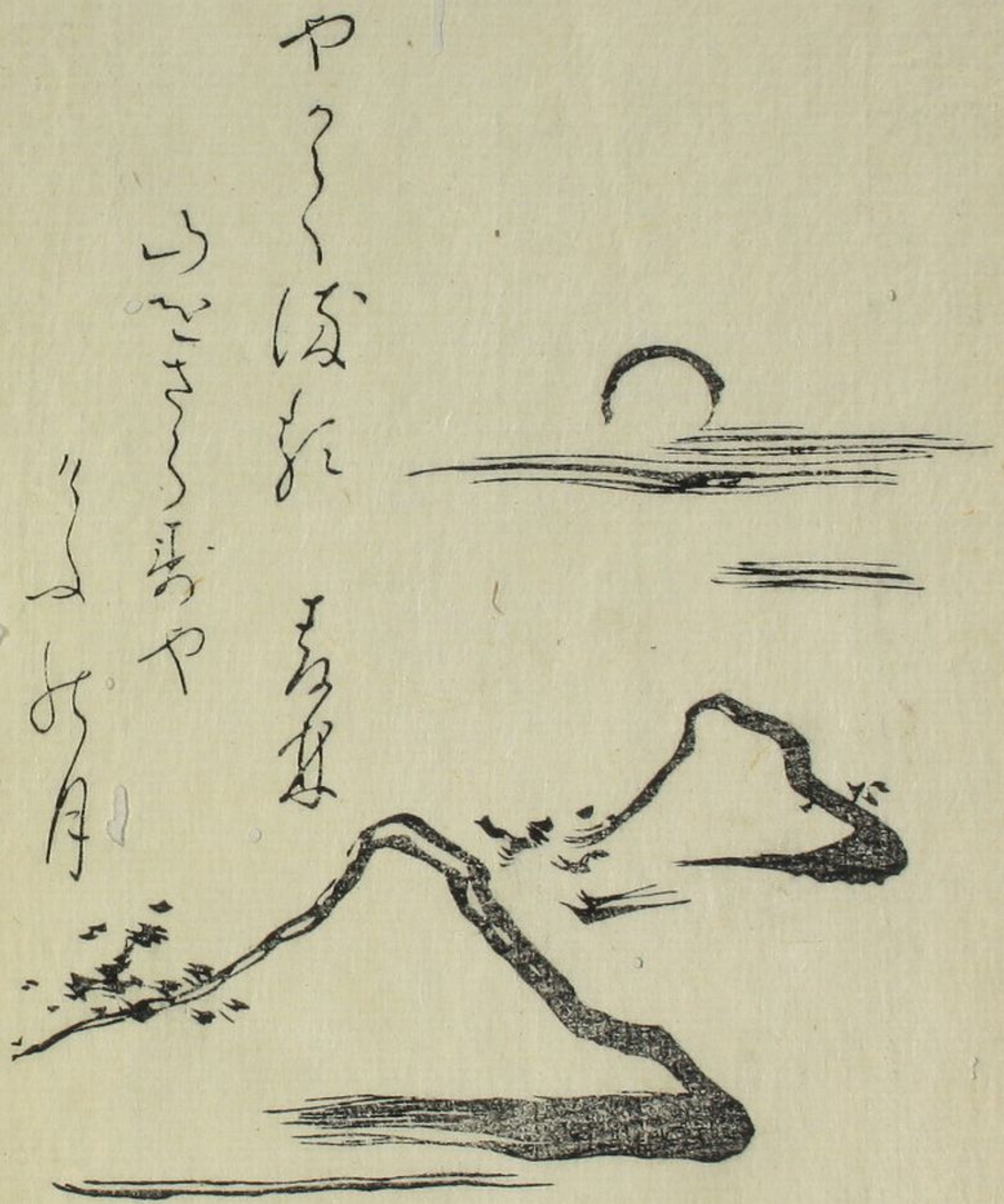
巴洲

あつた日のうらみかきこみかみこき

里竹

あつた日のうらみかきこみかみこき

右虎



やゝ後夜 暮暮
 山ささるる葉や
 夕月

流ぬ新苔は菊のや水如月

秋さく暮れとにそは花 史昂

鞠垣の碓石は同志の志 仙臺

又城の敵は空も反古法 千代女

悪好も冬は火燈の名点なり 蝶角

下さくとすむらゝ時雨 胡秋

終く半さの帆子くは来て況 舜也

控の書しきさゝりて秋の風 胡母

大和
 巨冊

各詠

これ系よりねかりや月れ雪

和加 史記

不冬の泣久きや月れ秋

仙臺

月れ剣けり夜あり塚の上

竹兎

茂秋と月と猿を陸れ突

長翠

孫形はまも菊や月のやね

千代女

考も他かれ庵いと法師の
示もそくくく

定明く月の他方や月れ記

寐也

道の記れあやう匠月のは

蝶角

月れまはれいんくれまはれ

胡秋

月れや味も糸は初むく

東梅

西よいゆきとそくく月れ

京 仙行

名月の影や被も悟すしあ

李仙

持奴境れそ音うくくみのみ

義濃 山路

文皇のこらんよ思やうくれ

正 礼長

名月や明りも御のまゝ

東市

冷水

世来予のい回よりよき御のまゝ

林泉

後萩も伊智れちうそまの月

加賀金沢
た菊

いよは後や家も二足の一足ふ

當可

いよは後や家も二足の一足ふ

伯李

ものねそと源よりみらる

素毛

再おれまゝを考まゝ

貴追

名月のもいよは後や家も二足の一足ふ

并路

茶焼く

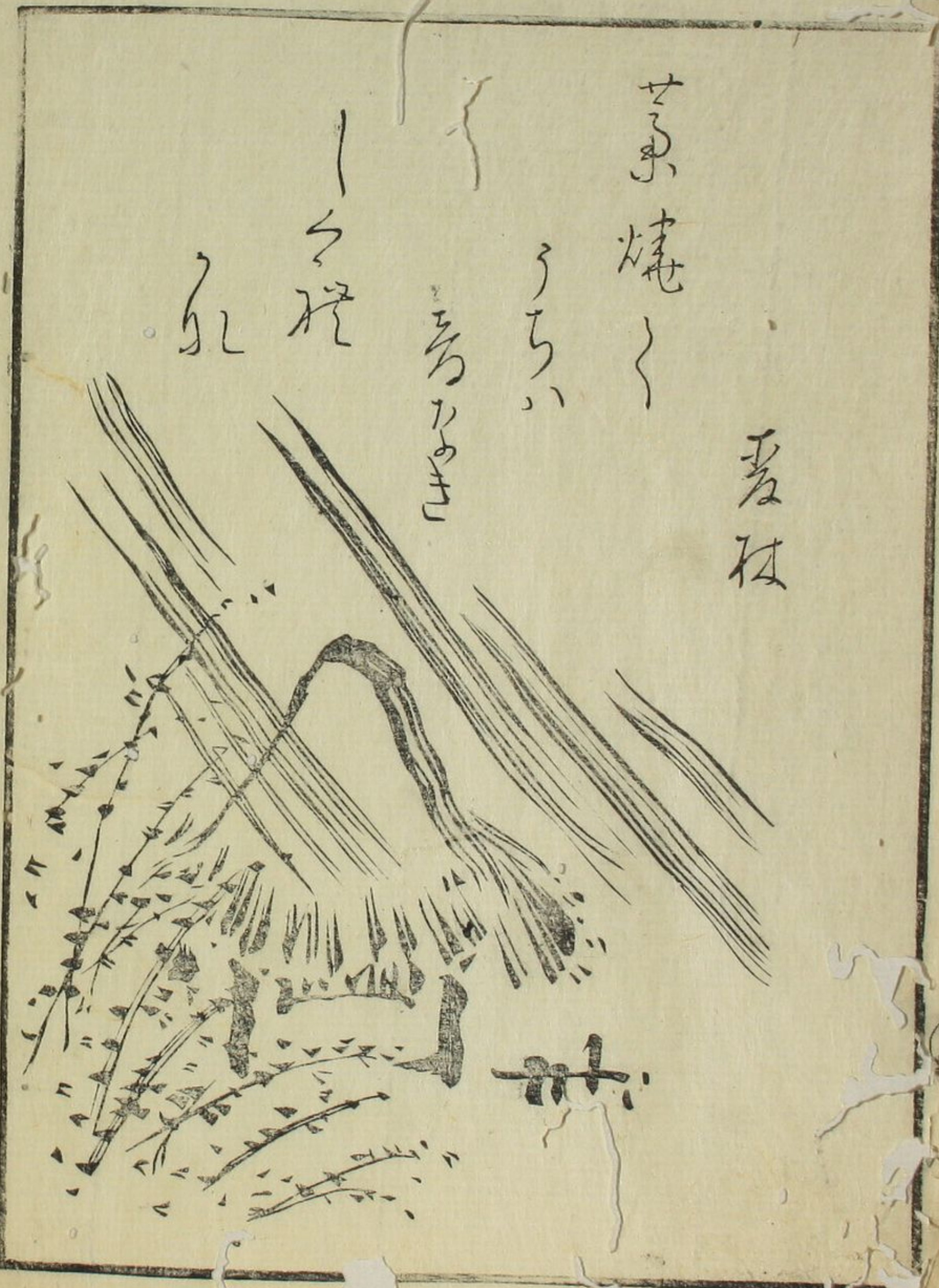
夏枝

うら

あかき

しん

ん



雨下は海をこぼる時雨

散るよふれも舟帆往

糸の杖一本の縁をくさ

乳母の糸を織りまじ

糸の涼のうさぎはみむ

きよきよ月おをては

月さんいそげぬ髪も

静かきうたの糸菓子

東武

柳居

秋氏

山只

古道

茅雁

竹外

琴堂

此筌

各詠

初時酒屋の朝戸敲ききり

東武 秋氏

幸湯へけよけ西の中の時

琴堂

ま牛の湯に系に糸くお好

如林

藤の葉のうらむを時ぬ

卧鹿

眉のくを縮るの語りや初

柳舟

孫虫のそ山尾よ村の時

信風

此れ初と的のくくある時

花溪

牛の背れ句倍ぬきく

翅白

おろく麦の葉うまや初時

晚瓜

時をねやまを積さぬ

朱雁

形も能くあやむれ琵琶法師

巨鈎

鹿の爪をふく

此笠

音のよれや古道の

古道

極ふ燈の志くや市にから

竹外

望も夏ぬ月を遅る

山只

秋時言や初の森玄ハ海ノ中ノ
柳式部 澗式部

元ノ終ノ山ノ行キヤ初時言
免秋

頂キ森ノ中ノ行キヤ初時言
連化信嘉

孤海ノ上ノ白キハ初時言
不秋参員

七浦ノ上ノ河ノ上ノ初時言
朴手参員

之ノ月ノ上ノ行キヤ初時言
只川

石ノ上ノ画ノ上ノ行キヤ初時言
子間

夜ノ上ノ海ノ上ノ行キヤ初時言
洞口

森ノ上ノ啼ノ上ノ行キヤ初時言
東武 牙光

枯枝ノ上ノ白ノ上ノ行キヤ初時言
相見 小田原 麦由

初時言ノ上ノ行キヤ初時言
麦十

字ノ上ノ行キヤ初時言
五湖

初時言ノ上ノ行キヤ初時言
丹志 尾取 前津

吹奏ノ上ノ行キヤ初時言
豆花 百外

一村ノ上ノ行キヤ初時言
馬遊

籠よりの此照りし時雨
魚紅
鳴く居て歌えり此時雨
九歌

追加

越後新写

古寺の庭を麻田やうんこ
霞舟
藻の花は雨を舟やうんこ
子竿
鴨はふさふさ秋をうたへ
有文
淋しさを独りかきうんこ鳥
麦呈

海江子舟



